

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム尾西蓮池の家
(ユニット名)	2号館
所在地 (県・市町村名)	〒494-0019愛知県一宮市蓮池字郷東28-2
記入者名 (管理者)	(藤田う月)堀依巳子
記入日	平成 20年 10月 21日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「優しく・おだやかな介護を目指します」の基で職員は利用者と生活の中で実践している。</p>	<p>グループホーム独自の理念を地域との交流のサービスに継続していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関のみやすい場所に掲示されています。職員は理念を意識して日々の業務に実践しています。</p>	<p>「優しくおだやかな介護」を意識して精神的にも穏やかな気持ちを持ち、取り組んで生きたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通して、理念を地域に理解してもらえよう説明をしています。家族には契約時に説明をして理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議には、市役所の職員・民生委員・家族に来訪していただき、理解してもらえよう説明する。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の住民から季節の収穫された野菜を頂き、その都度、会話をもち交流に努めて行きます。</p>	<p>地域の輪を広げて挨拶から始まり、声をかけてもらったり気軽に会話ができるように取り組んで生きたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に入会しており、地域の祭り(子供会)・中学校の運動会の行司に出来るだけ参加し、交流することに努めている。</p>	<p>地域の祭りの日は子供達がホーム内に来訪し、交流ができる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>独居の高齢者宅への訪問をしている。時折の花・果物等を届けている。元気かどうかの電話も入れている。</p>		<p>今後も地域貢献に取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ミーティングで職員同士で意見を交換する。常にミニミーティングをしていて、ワンフロアなのでマイクで呼んで集まって話し合いをする。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>福祉課の職員・民生委員・管理者・利用者との家族と意見交換をしています。みどりの利用者さんが今年いました。市の方と深い相談をしました。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は市の福祉課に介護に関する相談やホームの状況などの報告をしている。何かにつけ、市のほうには世話になり、その都度、相談をしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者様を通して成年後見制度について学ぶ機会があり、活用しました。2人程、成年後見人制度を使い、協力しました。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の研修会やミーティングを開き、質の向上を目指して防止に努めている。虐待のない様、日々ミニミーティングをして話し合いをしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族には管理者が時間をかけて説明をして理解をもらおう。どんな状況に対しても対応出来るように最善を尽くしている。	話し合いの場を設け、十分な説明をしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、職員と話をしたり管理者への電話があります。苦情はあまりありませんが、もしあれば小さなことでもすぐ対応しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には健康状態や日常の暮らしぶりの報告をしている。管理者は月1回家族に近況報告を踏まえた手紙を送付している。金銭管理は家族の確認のサインをもらっている。	家族に月1回、詳しく手紙で報告するようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族との関係も良好でホーム来訪時に意見や不満・苦情が言い易い雰囲気作りに努めている。家族からの意見や要望はミーティングを開き、検討している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人的に意見や話を聞き、反映させている。実にミーティングをよく開きます。お茶を飲みながらのミーティングもよくします。	ミーティングやよく聞き、意見交換をしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急時は管理者の指示により職員は調整する。緊急通院介助の折は管理者とともに残業にしてスタッフは動いている。	管理者の指示により職員は勤務の調整をする。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく利用者との関係は良好である平屋建てのホームのため、利用者又は他のユニットの職員とも顔馴染みとなっている。離職者が出たときには職員全員で業務をカバーしている。	異動や離職がある場合は利用者に影響が与えないように配慮する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の研修課程が入社段階別にあり、それを受けるシステムになっている。市の開催する講習にできるだけ参加している。</p>		<p>研修を受ける事により、知識を得て仕事にプラスになるように取り組みたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人のグループホームとの交流会や市の開催する講習会など、職員は参加してサービスの質の向上に活かしている。</p>		<p>交流することにより刺激になり、サービスの向上につなげたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>本部主催の日帰り旅行、忘年会等を毎年開催し、ストレスを軽減している。懇親会・私的なカラオケ大会もやっている。</p>		<p>仕事を離れて楽しんだりする。次からの仕事の励みとなる。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>カラオケの好きなスタッフはカラオケホーム内大会をやっていて、工作の好きなスタッフはディスプレイをやってる。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人との会話を多く持つようにしている。どんなに小さなことでも聞き逃さないように傾聴している。</p>		<p>ゆっくりと話を聞くと本人が安心した表情が出る時がある。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの電話・来訪などで管理者が積極的に話を傾聴する。時には管理者が電話をして傾聴する。</p>		<p>家族が困っている事等、親身になって話を聞く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病歴・生活歴・精神的等から必要とする支援を見極め、訪問リハビリ・訪問看護、時にはショートステイ等のサービスを利用している。		利用者の立場になって考え、本人が必要としている支援を取り組みたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が必要とするサービスを本人・家族とよく相談し他の利用者・職員にも馴染めるように努めている。		利用者に合ったサービスを考え、本人が安心できるように取り組んでいきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎朝、決まった時間になると体操・合唱等、一緒に歌い過ごしている。又、人生の先輩として利用者から学んだりする良い関係を築いていきたい。夕方から利用者同士で歌を楽しんでいる。		本人の思いを理解する事が困難な時もあるが、利用者の気持ちになって取り組めるようになりたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一人一人の性格を活かし、大きな声で笑ったり話したり、時には歩行困難な利用者が職員の支援によって向上すると共に喜びあい関係を築いている。		利用者に思いやり気遣いを忘れることなく、日々の向上に取り組みたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人からの話・家族からの話をよく聞き、間に入り両方が理解がいき、これまで以上に信頼できるように支援している。		本人と家族が良い関係が続くように取り組みたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が電話をしたい時には、取次ぎをしたり面会時には親しんで話ができるように支援している。		知人・友人の来訪があると、喜ばれるので関係が途切れないようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアに集まりやすいように職員が会話を持てるように努めている。利用者同士が自然に集まり、夕方の歌う会ができている。		利用者が気分良く関わり合い、何でもないような事でも自然に助け合っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	管理者が電話連絡をしたり、近況報告を聞くようにして常に配慮している。独居の方がいる場合、訪問したり電話をしたり、プレゼントを届けに行く。		管理者は関係を断ち切らないように常に神経を使い配慮している。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、本人や家族から詳しく話を聞いて楽しみと生きがいを持てるように検討する。できるだけ本人の意向を聞いてゆく。		本人に何を望んでいるのか、把握する為に時間をかけてみる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から詳しく話を聞き、暮らし方・生活環境の把握に努めている。		これまでの生活歴・生活環境が持続できるように取り組んで生きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活・行事・体調の変化等を職員同士で話し合いをして把握できるように努めている。		毎日の介護を記録・申し送り帳に明記したり、口頭で申し送ったりしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い利用者が安心して暮らせるように、本人や家族にも連絡し、理解を得て計画を作成している。		ミーティングでもよく話し合い、情報交換をするようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランに基づき、見直しをしたり変化時は家族に連絡をし、本人・職員を交えてよく話し合い、計画作成をしている。		急に変化が生じる場合がある。話し合いを持ち、計画をするようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルチェック・食事摂取・水分摂取・個別記録・申し送りノートや職員からの情報を得て見直しに活かしている。朝・夕、2回のバイタルチェックをしている。→夕方、熱が出やすいため		日々の記録が重視し、利用者の変化時等、見直しが出来、参考になる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院や入院の送迎をしたり、入院中の洗濯物の管理を交代で行っている。退院後の受け入れについても、全職員が対応している。一日おきに通院して対応している。		施設の親切な気持ちで職員が遠方でも交代で支援している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事に関係なくボランティアで舞踊・手品・大正琴等の催しがあります。運営推進会議を開催し、民生委員・市役所の福祉課の職員と意見交換し支援している。		色んな人との関わりがあり、気づくこともあり人生の勉強にもなる。これからも色んな人に関わりを持ちたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向があれば、応じてるように他の事業者と話し合い支援している。ホームドクターの基に週二回のリハビリ訪問看護の受け入れ週一回。		他の利用者の意向や必要性があれば支援したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括センターの代わりに市の高年福祉課が対応してくれています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月1回、ホームドクターの往診又は受診したり、電話で相談をしている。家族希望の病院があれば通院介助をしている。		なるべく本人・家族の要望を聞いて受診している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターとの信頼関係があり、定期的に往診があり緊急時の受診をしている。職員が相談したり、認知症の診断を受けられるように支援している。		認知症専門医に受診する事は距離があり、診察するのに長時間かかり、ストレスになる。本人の負担が大きくならないように、馴染みのあるホームドクターに受診支援している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に4名看護師がいるので、困った時や不安なときは相談できるので安心です。		看護師に医療の問題・健康管理について指導・助言を聞き、速やかに対応したい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者が電話連絡をしたり、情報交換や相談に努めている。早期退院に向けて施設・病院・職員・家族と話し合い、連携をとっている。		利用者が入院中職員が交代で洗濯物を週三回取りに行きながら、本人の様子を聞くことができ、情報を得て退院に向けて支援している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者・ホームドクター・家族と話し合い、方針を決めたり様態の変化に応じてホームドクターに相談しながら共有している。		個人差はあるが、家族からの相談もあり、最後までその人らしい生き方を考え、家族・職員も後悔のない様に取り組んで生きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示により、職員・看護師等で本人が安心して日々を暮らせるように支援に取り組んでいる。管理者は家族と相談しながら検討や準備を行っている。96歳になる方を8月25日皆でみとりました。Dr・家族・ホームで良い連携ができました。		終末期の利用者が毎日をよりよく暮らせるよう一日一日を大事に支援したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族及び本人に関わる関係者で十分に話し合い、ダメージを防ぐ事に努めている。本人によく話を聞いて、話し合いを持つ。必ず家族の了解を得る。		家族は遠慮して思うように話さないのではないかと、家族に十分な説明と話し合いをするようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように態度・言語を十分に気をつけて配慮している。	全職員がプライバシーの確保を徹底している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	個人差があり、レベル低下もあり困難時もあるが利用者に合わせて説明を行ない納得しながら暮らせるように努めている。	利用者が自分の思いや希望がある時は職員が全面的に支援している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望があるとき(外出・買い物)はなるべく本人の希望に添うように対応している。例えば、なし1つでも買い物支援している。	その人の生活を束縛しないように一人一人のペースを大切にしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一年に何度か、移動理美容院に依頼する。本人が希望する日があれば優先する。その人らしいおしゃれが出来るように努めている。	一人一人の希望を把握してその人らしい身だしなみやおしゃれができると、嬉しそうな笑顔が見れる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を作り、利用者の好みも取り入れたりすると喜ばれる。自立の利用者が積極的に食事の準備や片づけを手伝う。全食手作りになりました。	手作りの食事になったら利用者の楽しみの一つとなり、利用者の「おいしかった」との一言を聞くと作り手の励みとなっています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族がおやつを持参されると状況に合わせて対応している。コーヒーは曜日を決めて喫茶店に出掛けるようにしている(火曜日)	摂取量が多くならないように楽しみの一つになるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介助を必要とする利用者には時間を決めて排泄介助をする。失敗を少なく出来るように介助をしながら見守る。		プライバシーを守り、利用者に合った排泄支援が出来るように行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯は本人の希望通りになるのは介助が必要な利用者は困難であるが、入浴するのを楽しみにしている。自立の利用者は希望通りに入浴を楽しんでいる。		リラックスして入浴できるようにその人にあった入浴方法を考え取り組んでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状況に応じて安心して休息できるように支援している。		利用者の生活習慣を乱さないように朝ゆっくり目の起床、昼食後の睡眠等、気持ちよく休息できるように支援している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出してカラオケ喫茶支援しています。毎日、お風呂好きの人には毎日の入浴を支援しています。		本人の意見を聞いて、楽しみができる張り合いが出る利用者もいる。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者が多く、所持するのは難しいが希望に応じて一緒に外出したり買い物をする。梨1つを買いに行ったり、好きな洋服を買いに行っている。		お金を所持しても紛失してしまうので本人の希望があれば職員と一しょに金銭を使う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人・家族の要望があれば盆・正月に外泊・家族と外出したり、職員とカラオケ・喫茶店支援している。		カラオケで思い切り歌ったり、喫茶店でコーヒーを飲みながら雑談している顔には笑顔が見られる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の希望があれば外出できるように支援する。職員が利用者と花見・藤祭り・アジサイ等を見に出掛ける。		利用者の中にはレベル低下になり、外出も困難になってきているが、少なくとも一度は行くようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい利用者には、職員が電話をかけられるように支援する。		利用者から家族に電話がしたいと要望があると話してもらおう。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員も気安く挨拶・話かけられるように心掛けている。和やかに話が出来るように居室で過ごしてもらおう。		面会者は多くはないが、居心地よく過ごしてもらえるよう考慮している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないでケアに取り組んでいるが、やむを得ず身体拘束をする場合は本人・家族に説明をして理解を得る。		日常生活の中で危険な状態が発生する場合もあるが、職員が身体拘束をしなくても良い方法を考え取り組みたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はかぎをかけないで、自由な生活が出来るように支援している。やむを得ず鍵をかける必要があるときは家族に説明している。		外に行きたいと要望があるときには一緒に行動を共にしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の性格・行動を把握しており、危険物障害になるものは放置しないように安全に努めている。		プライバシーを配慮しながら利用者の所在や様子を把握している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活で利用者の様子・行動を把握し、危険防止に努めている。		常に危険防止には努めているが、身の危険もあり素早く対応出来るように取り組みたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本部からの研修・市主催の研修に参加したり、ミーティングで意見交換をして事故防止に取り組む。		知識だけではなく機転、素早い動作で対応出来るように取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者や経験豊かな職員の指導を受けたり、看護師に相談できるので対応出来るように努めている。		看護師が勤務でない時もあるので、応急手当ができるように努力している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時、速やかに避難出来る様に利用者には話をしている。緊急時に備えて職員は指導を受けている。民生委員には事前に協力をお願いしている。		避難訓練を定期的できるようになりたいが、利用者の状態による。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒・病気等、危険な事もあり事前に家族に説明をし、理解を得る。		職員は利用者の暮らしを大切にしたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕のバイタルチェック・顔色・体調の変化に気づいたときには主治医に相談したり病院受診をする。緊急を要する場合は救急搬送をする。		体調の変化に気づいたら対応出来るように努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの説明や薬の目的や副作用用法や用量について理解し、服薬の確認や症状の変化の確認に努めている。		薬を服用して心身上の変化がある場合は主治医に伝え薬の見直しをする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	多くの水分摂取したり、食事は手作りなので献立を工夫している。毎朝、ラジオ体操で身体を動かしたりホーム前で歩いたりしている。(天候による)		便秘解消のため、排便誘導、負担にならないような運動に取り組んでいる。便秘解消が出来ないときはホームドクターに相談している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きやうがい、義歯の洗浄・口腔ケアをして清潔に保てるように利用者の状態に応じて支援している。		口腔内を清潔に維持する事が困難になってきている利用者もいる。生活の中で食欲の低下・口の中の異常等に早く気づけるように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は詳しく毎食記録している。栄養バランス・カロリー・水部摂取量は把握している。		利用者の状態を考え摂取量を取り過ぎないように工夫している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症にかかりやすいので早期発見に取り組み対応している。職員は感染症に対して認識している。		施設のホームドクターの協力により、予防接種を施行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に衛生面に配慮をし、新鮮な食材を使用し早く使い切るようにしている。調理器具の消毒をしたり、調理場所の清潔の維持に努めている。		食中毒を起こさないように食材の使用・衛生面には十分に注意したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には季節の花を置いたり、玄関内には季節の花で飾っている。ホーム前にはプランターに利用者さんと一緒に季節の花を植え替えては楽しんでいる。		誰にでも季節の移り変わりが感じるように工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの窓は大きく窓から見える景色で季節の移り変わりを楽しむ。キッチンでは利用者・職員が顔を見ながら話しながら作業が出来る。お互いの動きが確認できる。		利用者がゆったりとした気持ちで過ごせて居心地良い場を提供したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは自由にテレビを観たり、ソファで居眠りをしたり数人で会話をしたり、リラックスできる場所です。		利用者が思い思いに使用できている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた鏡・ダンス衣類等を使用されるベッド生活の利用者に対して外の景色が常に見られる位置にベッドがある。日々の天気・季節を感じる生活ができるような心配りがされている(季節の花飾り)		家庭で使っていた物を持ち込み家庭の延長になるようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	晴天の時はフローア居室の窓を開け、換気をする。季節に応じて冷暖房で温度調節をして快適に過ごしている。		十分な換気が出来るように利用者の状態を見ながら調節している。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のフローア、居室には手すりを設置。ホーム内は広い生活空間で歩行障害にならないように配慮している。		安全な生活が送れるように工夫したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の出来る範囲内で持っている力を自分維持する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランタンに季節の花を植えたり菜園に季節の野菜作りをして利用者さんと収穫を楽しむ。		自分の利用者と一緒にもっと楽しめるように活かしたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎朝、ラジオ体操・歌を歌うことを楽しみにしておられる利用者は時間になると自分からフロアーへ行かれる。
- ・毎日が職員の手作りの食事になり作る方は大変ですが、利用者は昇治を楽しみにしておられ「おいしかった」と言われる一言がほっとします。
- ・気候により外でのラジオ体操になり、歌も外で唄います。